



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

ポエム大賞、エッセイ大賞、童話大賞、絵手紙大賞 表彰式

2月1日に足利市民会館別館ホールにおきまして「ポエム・エッセイ・童話・絵手紙大賞表彰式」を執り行いました。

今回は、ポエム大賞 1076 作品、エッセイ大賞 174 作品、童話大賞 62 作品、絵手紙大賞 166 作品、計 1478 作品の応募を頂き、各賞の審査委員長による厳正な審査の結果、それぞれ最優秀賞、優秀賞、入賞、特別賞が選定されました。受賞者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

表彰式当日は受賞者及び保護者、来賓、審査委員長、スタッフ等を含め総勢 104 名が集い、賞状授与、審査委員長からの入賞者の作品についての講評などが行われました。各受賞者に賞状が授与されたあと、今回は『浅沼公子特別賞』がポエム、エッセイ、童話、絵手紙の各部門からそれぞれ 1 名ずつ選出された受賞者に贈られました。この賞は、浅沼経営センターグループ取締役副会長 浅沼公子様からの特別賞として設けられました。

* 最優秀賞受賞者

- ・ポエム大賞 大嶋 日花
- ・エッセイ大賞 高山 音綺
- ・童話大賞 永島 実季
- ・絵手紙 井上 岳哉

* 浅沼公子特別賞受賞者

- ポエム大賞 宮田 萌子
- エッセイ大賞 日下部 遥香
- 童話大賞 永島 実季
- 絵手紙 井上 岳哉



全員で記念写真


 ポエム大賞審査委員長 童話、エッセイ大賞審査委員長
 森井香衣さん


馬里邑れいさん

森井審査委員長から特別講演として五感を澄ませ、作る過程や作品を声に出して読むことが大切です、と話しがありました。また、童話・エッセイをご担当された馬里邑審査委員長からは「小説ができるまで」という題で、人物像からドキュメントを制作する工夫や三題話しなど作りやすいところから始めることなどについてお聞きしました。

その後、公益財団法人東日本盲導犬協会様のご協力で、『盲導犬ふれ合う教室』という特別企画のイベントがありました。若林訓練士と一緒にきた訓練犬『ウォルト』が実際に視覚障害者をサポートする様子を写真とともに説明され、皆ひとつひとつ感心しながら聞き入っていました。アイマスクをつけた2名の受賞者(小学生と中学生)が『ウォルト』と一緒に障害物を避けながら歩きました。めったに見られない様子を間近に見て、参加者はとても真剣な表情で見つめていました。おとなしく頭の良い『ウォルト』としばらくふれ合う時間も設けられ、それぞれ盲導犬に触ることができ感激していました。

本行事で、2013年度の開倫ユネスコ協会活動を締めくくることができました。これもひとえに参加者の皆様とそこご家族、また、常日頃より当協会とユネスコの趣旨に賛同し、活動を支援して下さる会員、賛助会員の皆様からのご理解、ご協力の



ポエム大賞受賞者



エッセイ大賞受賞者



童話大賞受賞者



絵手紙大賞受賞者



アイマスクをして盲導犬と歩く受賞者



盲導犬ふれあい教室